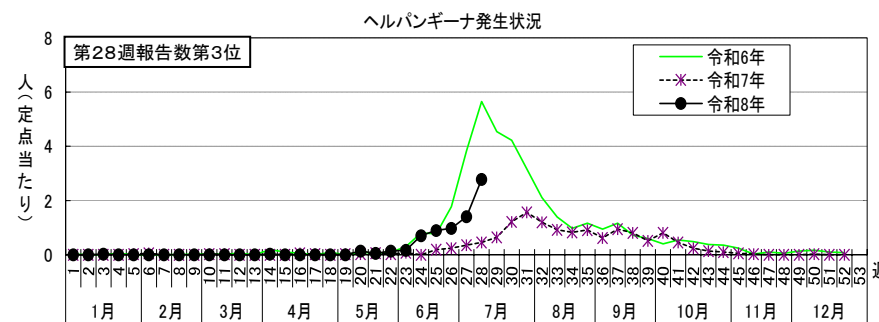
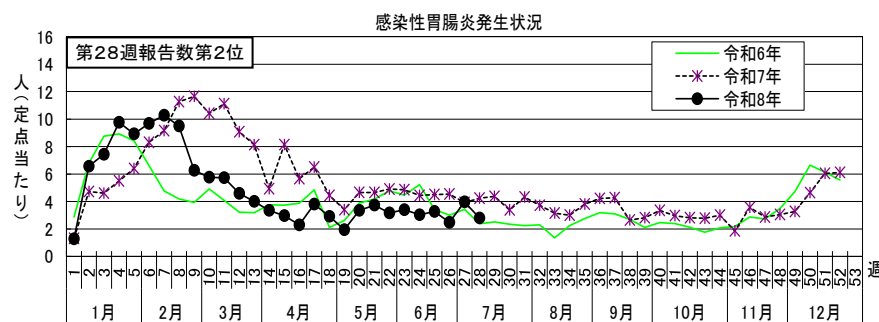
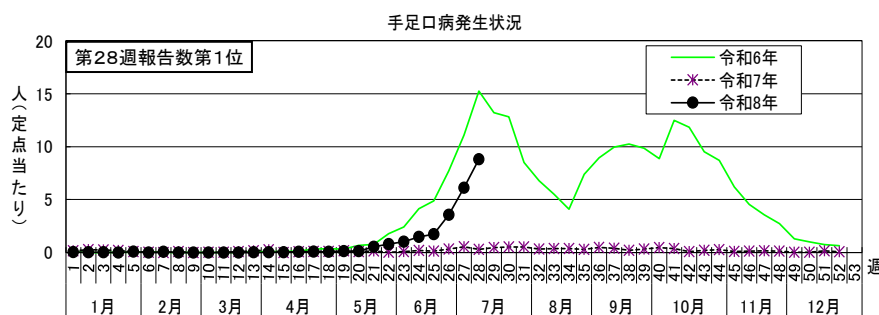


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和8年7月6日（月）～令和8年7月12日（日）〔令和8年第28週〕の感染症発生状況

第28週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）手足口病 2）感染性胃腸炎 3）ヘルパンギーナでした。
手足口病の定点当たり患者報告数は8.81人と前週（6.11人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.81人と前週（3.97人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は2.78人と前週（1.41人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

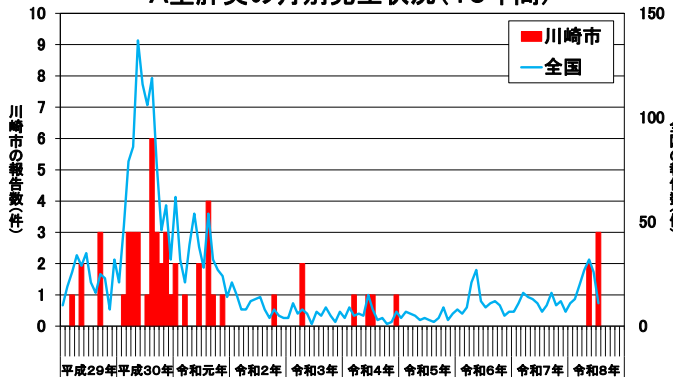


こんな病気知っていますか？～A型肝炎～

A型肝炎は、2～6週間の潜伏期間の後、発熱や倦怠感等の初期症状に続いて、食欲不振や黄疸等がみられる疾患です。国内においては、平成29年～令和元年にA型肝炎の全国的な流行がみられ、その後一旦報告数が減少していましたが、令和6年以降は再び増加傾向にあります。川崎市においても、令和2年以降は年間5件未満で推移していた報告数が、今年は第28週（7月6日～12日）までに既に計5件となっています。

A型肝炎は症状だけでは診断が難しく、確定診断のためには血液検査が必要です。まれに劇症化することもありますので、倦怠感や消化器症状が長引く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

A型肝炎の月別発生状況（10年間）



A型肝炎とは？

- 病原体
A型肝炎ウイルス
- 感染経路
経口感染、接触感染、糞口感染
- 潜伏期間
2～6週間（平均4週間）
- 主な症状
発熱、全身倦怠感、食欲不振、黄疸、肝腫大、濃褐色尿等
（無症状の場合もありますが、成人は70%～90%が発症するとされています。）
- 治療
特異的な治療方法はなく、対症療法が中心
- 予防
ワクチン接種

